

# 東海道五十七次

まだ知らない つぎの旅へ

存知でしたか？  
東海道「五十三次」には、「つぎ」があったこと。

伏見・淀・枚方・守口から大坂・高麗橋へ。  
『東海道中膝栗毛』\*の弥次さん・喜多さんも伏見の三十石船で楽しんだ東海道「五十七次」。

そんな旅の記憶と出会いに、さあ京阪電車で。まだ知らない、つぎの旅へと誘います。

※江戸時代に十返舎一九が描いた滑稽本  
監修：歴史人編集部

## また知らない つぎの旅へ 東海道五十七次 スタンプ行脚

三条と4つの宿場、高麗橋の合計6個のスタンプを集めると、「特製ポストカード」を進呈！

- 【スタンプ場所】
- ・三条駅 (はいはんインフォメーション)
  - ・中書島駅 (はいはんインフォメーション)
  - ・淀駅 (中央改札口付近)
  - ・枚方市駅 (はいはんインフォメーション)
  - ・守口市駅 (はいはんインフォメーション)
  - ・天満橋駅 (はいはんインフォメーション)

【ゴール】  
淀屋橋観光ステーション (淀屋橋ステーションワン 地下1階)  
引換時間 10:00～13:00、14:00～17:00  
※上記以外の時間は引換できません

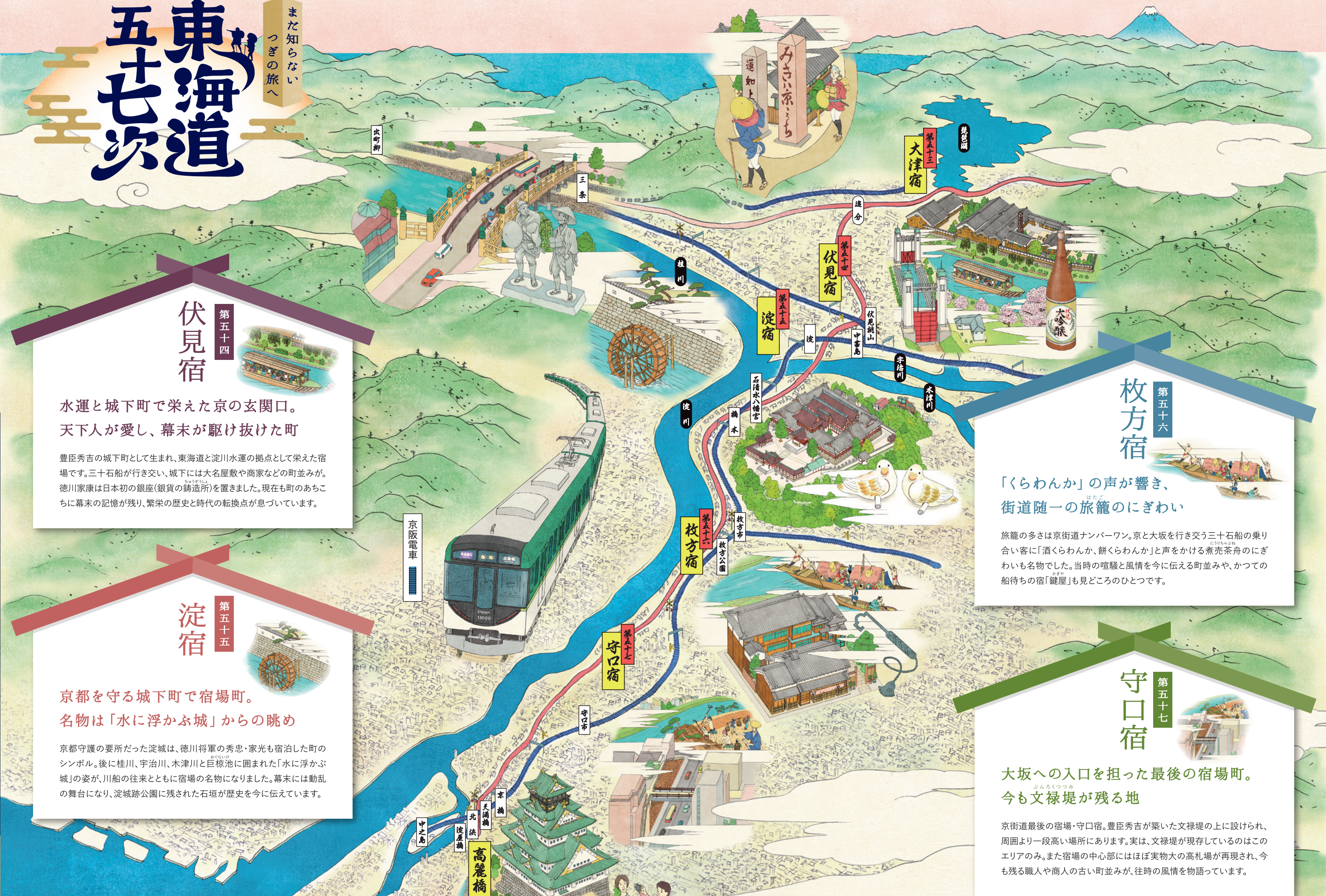
ゴールでこのパンフレットをご提示ください。

スタンプ行脚には、「京阪電車 大阪・京都1日乗車券」が便利です。



# 東海道五十七次

まだ知らない つぎの旅へ



## 伏見宿 第五十四

水運と城下町で栄えた京の玄関口。天下人が愛し、幕末が駆け抜けた町

豊臣秀吉の城下町として生まれ、東海道と淀川水運の拠点として栄えた宿場です。三十石船が行き交い、城下には大名屋敷や商家などの町並みが、徳川家康は日本初の銀座(銀貨の鋳造所)を置きました。現在も町のあちこちに幕末の記憶が残る、繁栄の歴史と時代の転換点が息づいています。

## 淀宿 第五十五

京都を守る城下町で宿場町。名物は「水に浮かぶ城」からの眺め

京都守護の要所だった淀城は、徳川将軍の秀忠・家光も宿泊した町のシンボル。後に桂川、宇治川、木津川と巨椋池に囲まれた「水に浮かぶ城」の姿が、川船の往来とともに宿場の名物になりました。幕末には動乱の舞台になり、淀城跡公園に残された石垣が歴史を今に伝えています。

## 枚方宿 第五十六

「くらわんか」の声が響き、街道随一の旅籠のにぎわい

旅籠の多さは京街道ナンバーワン。京と大坂を行き交う三十石船の乗り合い客に「酒くらわんか、餅くらわんか」と声をかける煮売茶舟のにぎわいも名物でした。当時の喧騒と風情を今に伝える町並みや、かつての船待ちの宿「鏡屋」も見どころのひとつです。

## 守口宿 第五十七

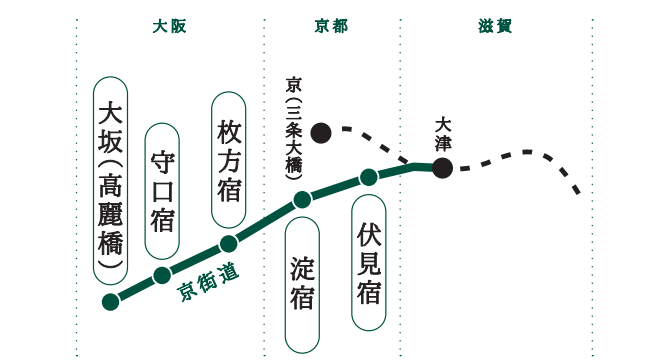
大坂への入口を担った最後の宿場町。今も文禄堤が残る地

京街道最後の宿場・守口宿。豊臣秀吉が築いた文禄堤の上に設けられ、周囲より一段高い場所にあります。実は、文禄堤が現存しているのはこのエリアのみ。また宿場の中心部にはほぼ実物大の高礼場が再現され、今も残る職人や商人の古い町並みが、往時の風情を物語っています。

## 東海道五十七次について

### 京街道の成り立ち

東海道といえば、歌川広重の浮世絵で有名な江戸・日本橋から京都・三条大橋までの「五十三次」ですが、実は「五十七次」でもありました。江戸幕府は西国に配した外様大名が参勤交代で朝廷と接触することを禁じていたため、東海道も洛中を通らない伏見への回路が必要となりました。そのルートの土台となったのが「京街道」。豊臣秀吉が淀川の堤防を改修したのち、その堤防上に開いた道です。そして、街道沿いには伏見・淀・枚方・守口の4つの宿場が整備され、東海道五十三次に加わり、東海道五十七次となりました。京から大坂へ向かう場合は、下り船が速くて便利のため三十石船がよく利用されていました。ただ、急がないときや大坂から京へ向かう場合は、京街道を歩き、淀川の風景を愛でたり、宿場町を楽しんでいたと言われていました。また京街道は、京と大坂というふたつの異なる文化の交流の道であり、幕末には幕府軍と新政府軍が行き交った道でもあるなど、文化と歴史のロマンにあふれています。



## 東海道五十七次の遍歴

- 1594 豊臣秀吉が堤防・文禄堤(太閤堤)を築く。
- 1596 川筋が安定し、堤防上が陸路として利用され始め、京街道の起源となる。
- 1600 関ヶ原合戦
- 1601 徳川家康が東海道の整備を開始。江戸・日本橋～京都・三条大橋を五十三宿で結び、「東海道五十三次」が成立。
- 1619 二代将軍・徳川秀忠が、京街道(京都～大坂)を東海道に編入し、伏見宿、淀宿、枚方宿、守口宿の四宿を追加
- 1802 十返舎一九「東海道中膝栗毛」が刊行
- 1833 歌川広重「東海道五十三次」が刊行
- 1910 京阪電車が大阪・天満橋駅～京都・五条駅間で開通
- 1963 京阪本線が大阪・淀屋橋駅まで延伸
- 2026 東海道五十七次ラッピング電車 運行開始

# 三条

東海道五十三次の終着点であり西の起点



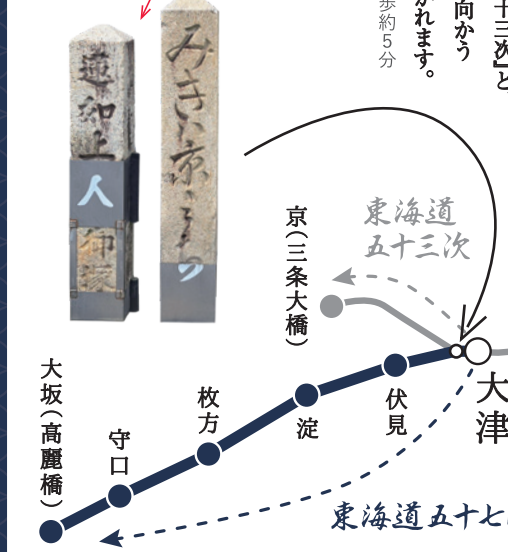
## 三条大橋

東海道五十三次の終着点で、石柱は豊臣秀吉が改修したもの。欄干の上の寢室珠には幕末につけられた刀傷が今もくっきり残っています。

●京阪電車三条駅下車すぐ



## 東海道五十七次への分岐点 髭茶屋追分道標



五十七次への旅はこちら

※店舗・施設の内容および料金は、予告なく変更される場合があります。

第五十四

# 伏見宿



## 御香宮神社

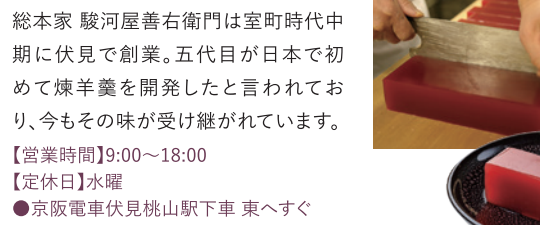
壮麗な表門は豊臣秀吉が築いた伏見城の大手門を移築したものです。桃山時代の貴重な遺構で、本殿とともに重要な文化財。境内に湧く「御香水」は伏見の名水として知られています。  
【受付時間】9:00～16:00  
●京阪電車伏見桃山駅下車 東へ徒歩約5分



## 寺田屋

坂本龍馬襲撃事件の舞台として有名な寺田屋。1868(慶応4)年、鳥羽伏見の戦いで焼失しました。現在の建物は、その後再建されたものです。  
【開館時間】10:00～16:00(15:40受付終了) 【休館日】月曜不定休  
【入館料】600円  
●京阪電車中書島駅下車 北へ徒歩約5分

## 『総本家 駿河屋善右衛門』の煉羊羹



総本家 駿河屋善右衛門は室町時代中期に伏見で創業。五代目が日本で初めて煉羊羹を開発したと言われており、今もその味が受け継がれています。  
【営業時間】9:00～18:00  
【定休日】水曜  
●京阪電車伏見桃山駅下車 東へすぐ

STAMP HERE  
中書島駅

## 桃山御陵と乃木神社



明治天皇が葬られている桃山御陵と忠義を尽くした乃木将軍をまつる麓の神社。伏見城跡の豊かな緑に包まれ、清々しい散策路となっています。  
桃山御陵【拝観時間】8:30～17:00  
●京阪電車伏見桃山駅下車 北東へ徒歩約25分  
乃木神社【拝観時間】9:00～16:00 【休業日】HP参照  
【拝観料】拝観料は不要 ※一部施設は別途必要(宝物館・内苑)  
●京阪電車伏見桃山駅下車 東へ徒歩約20分



## 十石舟

江戸時代に酒や米、旅客を運んだ船を復元。現在は遊覧船として運航しています。運河を進む船内から、酒蔵や町並みなど伏見らしい風景を楽しめます。  
【運航期間】3/20(金・祝)～12/6(日) ※予定 【運休日】月曜(祝日を除く)、8月は夏期運休期間あり、4・5・10・11月は無休  
【料金】中学生以上:1,900円、小学生:900円 ※料金は変更になる場合があります  
●京阪電車中書島駅下車 北東へ徒歩約2分



## 月桂冠 大倉記念館

「伏見の酒」は水の質はもちろん、伏見が水上交通の要衝であり、販路を拡大できたことが発展してきた一因と考えられています。月桂冠大倉記念館では現在でも利き酒など酒文化の体験に力を入れています。  
【開館時間】9:30～16:30(受付は16:00まで) 【休館日】8/13～8/16、12/28～1/4 ※ほか不定休あり 【入館料】20歳以上:600円、13歳～19歳:100円  
●京阪電車中書島駅下車 北東へ徒歩約5分

～五十七次の歴史～  
伏見城  
かつてこの地は政治の中心地。豊臣秀吉が一時代を築き、徳川家康がこの城で征夷大将軍の重下を受けました。城下には諸大名の屋敷が並び、毛利・島津など武将の名を冠した町名が基盤の目街路とともに残り、ここが「天下人の街」であったことを今に伝えています。伏見は後に桃の花見の名所になり、伏見桃山と呼ばれました。その名は京阪電車の駅名にも使われており、広く親しまれています。

第五十五

# 淀宿



## 淀城跡

淀川を望む地に築かれた淀城は、京都を守る戦略的な拠点。春日局の子孫である福業氏が明治維新まで居城し、現在は公園となっています。  
●京阪電車淀駅下車 南西へ徒歩約5分



## 與杼神社

もとは桂川の流れて面して鎮座した古社で、豊臣秀頼が本殿などを再建したとされています。現在は淀城跡に遷座され、地域の平穏を見守っています。  
●京阪電車淀駅下車 南西へ徒歩約5分



## 淀の水車

江戸時代、淀川から城内に水を引くために巨大な水車が回っていました。現在はその復元モニュメントが京阪電車淀駅前設置されています。  
●京阪電車淀駅下車 西へすぐ

～五十七次の歴史～  
淀古城  
戦国時代、現在の淀城跡とは異なる場所にあった淀古城。織田信長に抵抗した三好三人衆なども、ここを拠点としていました。のちに豊臣秀吉が改修して城を側室の茶々に与えたために、『淀殿』と呼ばれるようになりました。なお、跡地には江戸時代に妙教寺が創建されていました。

STAMP HERE  
淀駅

第五十六

# 枚方宿



江戸時代は淀川三十石船の船持ちの宿、その後料亭旅館として繁盛した『鍵屋』。現在は宿場町や「くらわんか舟」など淀川舟運の歴史を伝える資料館となっています。  
【開館時間】9:30～17:00(入館は16:30まで) 【休館日】火曜(祝日の場合は翌平日)、年末年始 【入館料】大人:200円、中学生以下無料  
●京阪電車枚方公園駅下車 西へ徒歩約5分



酒「くらわんか」  
ごんぼ汁  
くらわんか!



## 『割烹 藤』のごんぼ汁

「くらわんか舟」で売られていた名物を当時の具材、献立で再現した一品です。ごんぼはゴボウのことで、おダシに卵の花を使っているのが特徴です。  
【営業時間】11:30～14:00(L.O.13:50)、17:00～21:00(L.O.20:30)  
【定休日】第2・第4火曜、水曜 ●京阪電車枚方公園駅下車 南西へ徒歩約2分



## 本陣跡

枚方宿の中心であり、格式の高い大名や公家などが宿泊した本陣。現在は三矢公園となり、本陣跡の石碑が立っています。  
●京阪電車枚方駅下車 西へ徒歩約10分

～五十七次の歴史～  
八幡・橋本  
淀宿と枚方宿の間にある橋本(八幡市)は、古くから石清水八幡宮の門前町であり、参拝客の宿泊場所でした。京街道が通ってからは伏見・淀・枚方・守口に準ずる「間の宿」となり、大いににぎわいました。ところが幕末になると幕府軍と新政府軍の戦地となり砲撃によって町は焼失。その後、土地の良さから宿場や渡船場として復活しました。その面影は今も旅館や飲食店として残り、映画のロケ地にもなりました。

百済寺跡



百済の王族の末裔・百済王氏が奈良時代後半頃に建立した氏寺跡です。大阪府内に2件しかない特別史跡で、全国に先駆けて整備された史跡公園です。  
●京阪電車宮之阪駅下車 徒歩約10分



## 浄念寺(西御坊)

明応年間(1492～1501)の開基以後、西本願寺の寺として発展。かつての格式ある門跡御坊で、願生坊の「東の御坊」に対し「西の御坊」と呼ばれます。  
●京阪電車枚方公園駅下車 徒歩約5分



## 願生坊(東御坊)

慶長年間(1596～1615)に東本願寺別院として開かれ、枚方御坊と称し、後に「願生坊」と改められました。浄念寺(西の御坊)、本陣とともに枚方宿の中心地を形成しています。  
●京阪電車枚方公園駅下車 徒歩約5分

STAMP HERE  
枚方市駅

第五十七

# 守口宿



大坂に入る前の重要な宿泊地・守口宿。本陣跡は現在、道幅の広い道路になっており、案内板がその所在を伝えています。  
●京阪電車守口市駅下車 北東へ徒歩約10分



## 文禄堤

豊臣秀吉が、京都～大坂を結ぶ最短陸路として1596(文禄5)年に整備させた堤防。守口宿にはその一部が現存し、当時の面影を偲ぶことができます。  
●京阪電車守口市駅下車 北へすぐ



## 守口文庫

守口宿にまつわる歴史的な史料を数多く収蔵している郷土史料館です。宿場町の歩みを今に伝え、街道の歴史を深く知ることができます。  
【開館時間】9:00～17:00(入館は16:30まで)  
【休館日】水・土・日・祝日、12/29～1/3、夏期(原則8月第3週)  
●京阪電車守口市駅下車 北へ徒歩約10分

STAMP HERE  
守口市駅

# 最後の宿場

江戸日本橋から五十七番目、



## 難宗寺／竜田通り

明治天皇ご宿泊の難宗寺、守口宿本陣跡がある竜田通りは、皇太子時代の大正天皇が京阪電車の臨時駅から人力車で通るために造られた道でした。  
【拝観時間】8:30～17:00  
●京阪電車守口市駅下車 北東へ徒歩約10分



## 高札場跡

法度や掟を民衆に知らせるための高札を掲げた場所。かつては守口宿本陣近くにありましたが、現在は守口市駅近くに復元されています。  
●京阪電車守口市駅下車 北へ徒歩約5分



## 盛泉寺

守口御坊・盛泉寺では、明治天皇の大坂行幸の際には神器を納める賢所が置かれ、大坂に一時期遷都した日ともいわれました。  
【拝観時間】8:30～17:00 ●京阪電車守口市駅下車 徒歩約10分

～五十七次の歴史～  
森口  
「守口」の地名は、大坂の北東の入り口にあたる森に由来し、もとは「森口」と書きました。生い茂った樹林を意味する地名は、隣接する大阪市旭区の森小路、千林まで続きます。京阪電車の駅名にも森小路駅・千林駅があり、京街道沿いに守(森)口・千林・森小路と続く地名は、大坂の北東に広がる緑の風景の名残でした。

# 高麗橋



## 高麗橋

幕府直轄の公儀橋の中でも特に重要視された橋。東海道五十七次の公式な終着点で、現在の青銅の擬宝珠が名橋の歴史を物語っています。  
●京阪電車北浜駅下車 南東へ徒歩約5分



## 大阪城(京橋)

豊臣秀吉が築いた大阪城は、大坂の政治と経済の中心。京橋周辺は水運と街道が交わる要地で、城下町のにぎわいが今も感じられます。  
【開館時間】9:00～18:00(入館は17:30まで) 【休館日】12/28～1/1 【入館料】大人:1,200円、高大生:600円(要証明)  
●京阪電車京橋駅下車 南西へ、天満橋駅下車 南東へ徒歩約15分

STAMP HERE  
天満橋駅

諸街道が集う、東海道五十七次の終着点